

湛へ逆茂木引柵を振り籠城の用意をとり爲しにける夜
に義光公ハ河より攻陣し王ハ猶又天童殿向の軍
意をうたはしむる時ハ天正十二年八月廿日（一説九月九日）
大軍を引率し天童へ至押寄る山形より五十余丁に
して立合川と云なり川幅三十間にして常ハ水流る
事膝をぬぐまじ雨降りぬかさ増え時川幅一二丁に
及びて逆浪立ち流まで舟にも渡ると時まさる雨之
高野下迄は雨降ふさる俄く水を増え不思議な水
赤くして血をそくかぬし川の向ハ武者数百騎並居て
中も大將と見えしも禊拭武者一騎東西に馳廻り下知

をたひあふき足を見て川を渡る者も人みな義
光公は由を見玉く平兵衛と流し赤将しかる下先陣を
引直しそと箭少し射中て山形へと引取給ひなるが羽音
尾張守を召給ひは間雨一滴も降ふさる水増り殊に血
水流水ハ如何にも不思議なるなり見届ぬしと云ふ
畏れそ人を遣ふ水一滴も無く河原と云ふ由より上る
然ハ疾く押寄るしと云ふ早給ふおきて立合川ハ何あ
く天童原へ至押寄るさる先陣ハ山と林との間三丁程
隔て陣を敷城の神を見渡共城より東に十丁程隔
りハ幡山とて小山ありそ東に河あり在家の所東の方